

## VI 統計トピックス

### 10月 21世紀の子どもを追跡調査 ― 第1回21世紀出生児縦断調査の概況

厚生労働省が実施している「21世紀出生児縦断調査」は、全国の2001年の一定期間に出生した全ての子を調査対象とし、21世紀の初年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察していくという調査です。

その第1回調査の結果によると、親がなにかしら「子どもをもってよかったと思うことがある」は99.3%であり、その内容をみると「家庭が明るくなった」79.1%、「身近な人が喜んでくれた」78.1%、「生活にはりあいができた」54.4%となっています。

逆に、「子どもをもって負担に思うこと」については、「自分の自由な時間が持てない」55.2%、「子育てによる身体の疲れが大きい」39.5%、「子育てで出費がかさむ」34.7%となっています。

また、「子育ての不安や悩み」が「すごくある」割合は6.6%、「少しある」55.5%、「ほとんどない」37.6%となりました。

父母の喫煙状況では、母17.4%、父63.2%、父母ともに喫煙していない割合35.6%、年齢別では「19歳以下」の母44.1%、父83.4%と喫煙している割合は若年層で高いという結果が出ています。

### 11月 国民の災害に対する意識 ― 防災に関する世論調査

内閣府の「防災に関する世論調査」によると、自分が住んでいる地域が災害に対して安全だと感じているかという質問では「安全」ないし「ある程度安全」66.1%、「危険」ないし「ある程度危険」14.2%と回答しています。

また、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどの話し合いを行ったことがあるかどうかという質問では、「ある」34.9%「ない」64.3%（「わからない」0.8%）という結果が出ており、比較的身近な災害に関してはあまり危機感を抱いていないという結果となりました。

しかし、阪神・淡路大震災のような大地震に対しても自分の住まいは大丈夫かという質問では、「大丈夫だと思う」ないし「たぶん大丈夫だと思う」35.7%、「危ないと思う」ないし「少し危ないと思う」57.7%という結果となっており、大災害に対しての不安感が感じられる結果となっています。

### 12月 戦後ワーストの犯罪件数 ― 平成14年版犯罪白書

法務省の発表した平成14年版犯罪白書によると、平成13年における刑法犯の認知件数は、戦後最高の358万1,521件（対前年32万5,412件増）となり、交通関係業過（道路上の交通事故に係る業務上過失致傷及び重過失致傷）を除くと、273万5,612件（同29万2,142件増）と、戦後ワースト記録を更新しています。罪名別に見ると、窃盗が最も多く、次いで交通関係業過であり、両方で全体の約90%を占めています。

年齢層別人口比（人口10万人当たりの検挙件数）の推移では、近年強姦及び強制わいせつを除く罪種において、成人の各年齢層よりも少年の年齢層の方が高くなっています。検挙人員では、50歳代と60歳代以上の層では、全ての罪種で上昇傾向を示しており、特に、強盗及び強制わいせつの増加が目立っています。

来日外国人を見ると、交通関係業過を除く刑法犯の検挙人員は、20年間に7倍以上の増加を示しており、その罪種別では、強盗及び住居侵入の増加が目立っています。

また、それに対して、道路上の交通事故に係る業務上過失致傷及び重過失致傷を除く刑法犯の検挙率は、19.8%（対前年比3.8ポイント低下）と、戦後初めて20%を割り込みました。